

ラトビア月報

【2015年7月】



2015年（平成27年）8月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【政治】

- ・ ベーヨニス新大統領の就任（P. 1）

【経済】

- ・ 欧州委のレール・バルティカ関連資金はリガ空港・中央駅間の鉄道建設に（P. 2）
- ・ ロシアとカザフスタンがラトビア産魚製品の輸入を禁止（P. 2）

【外交】

- ・ ベーヨニス大統領のエストニア訪問（P. 4）
- ・ ベーヨニス大統領のリトアニア訪問（P. 5）

【日本との関係】

- ・ リンケービッチ外相のクロアチア訪問及び藺浦外務大臣政務官との会談（P. 7）
- ・ 歌手・加藤登紀子氏がリエパーヤでのコンサート「桜の枝」に出演（P. 7）

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたもので、在ラトビア日本大使館の見解を述べたものではありません。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。

—政治—

【今月の注目記事】

◆ベーヨニス新大統領の就任

7月8日、ベーヨニス国防相は国会において大統領就任につき宣誓を行い、新大統領に就任した（1918年のラトビア建国後9代目、91年の独立後5代目の大統領）。ベーヨニス大統領は演説の中で、国の安全保障強化が主要課題であり、軍事力のみならず、ラトビアの全住民の生活と、その家族の将来に対する安全保障も重要であると述べた。また、ラトビアの安全と繁栄は、EU及びNATOのパートナー諸国とのさらなる協力によって保障されると強調した。

大統領府長官は現職のビンビルリス氏が続投することとなった。

◆国旗不掲揚のための罰則は違憲

7月2日、憲法裁判所は、「個人が所有する住居での国旗掲揚を義務づけることは合憲であるが、その義務不履行により罰することは違憲である」との判断を下した。

本件については、ラトビア国旗法により半旗掲揚が義務づけられていた2013年6月14日に、自宅で半旗を掲げずに家族の祝賀会を行っていたため罰せられたソルビタ・オルセナ氏が、表現の自由が侵害されたとして憲法裁判所に不服を申し立てていた。

◆新国防相にベルグマニス氏

7月8日のベーヨニス国防相の新大統領就任に伴い、ラトビア国会はベルグマニス議員（ベーヨニス大統領と同じ与党「緑と農民連合」所属）を新国防相に選出した。同人は重量挙げのラトビア代表選手で、オリンピックにも3度出場。これまでにラトビア国軍や国防省等での勤務経験がある。

◆ラトビア首相府ウェブサイトに対するロシア領内からのサイバー攻撃を阻止

ラトビア首相府で閣議が行われていた7月14日正午頃、首相府のウェブサイトに対し14時間に及ぶサイバー攻撃が行われた。国防省が管轄するラトビアITセキュリティ事故対応研究所（CERT.LV）によると、同攻撃はロシア領内から行われた可能性が高く、ウェブサイトの脆弱性を探り出し、利用することが目的であったとみられている。関係機関の対応により同ウェブサイトは保護され、サイバー攻撃は完全に阻止された。

◆半年間の人口動静は悪化

7月21日に中央統計局が発表した推定値によると、2015年7月1日時点でのラトビアの人口は約197万9千人で、今年1月1日の人口数から約7,400人減少した。2015年1～6月の出生数は10,511人（対前年同期比1.4%減）、死亡

者数は14,729人(同3.7%増)で、移民を除く人口の自然減少数は4,218人であった。ラトビアでは1991年以降、死亡者数が出生数を上回る状況が続いている。

— 経済 —

【今月の注目記事】

◆欧州委のレール・バルティカ関連資金はリガ空港・中央駅間の鉄道建設に

7月20日報道によると、欧州委員会はバルト三国を縦断する鉄道建設プロジェクト「レール・バルティカ」に関し、第1段階としてラトビアに対して2億3800万ユーロを出資することを決定し、このうち大部分はリガ空港とリガ市の中央駅との間を結ぶ鉄道路線の建設に用いられることが明らかになった。建設工事は2018年～2020年にかけて行われる予定。

同プロジェクトについては、バルト三国の資金の管理方法や、ラトビア・リトアニア間の国境部分の鉄道ルートなどが未だに決まっていないなど不明瞭な部分も多い。一方で、最近の世論調査ではラトビア住民の85%が同プロジェクトを支持すると回答しており、住民の期待度は高い。

◆ロシアとカザフスタンがラトビア産魚製品の輸入を禁止

7月28日、ロシアの連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁は、8月1日よりラトビアの魚製品製造会社5社(ベンツピルス魚缶詰コンビナート等)が製造した魚の缶詰のロシアへの輸入を禁止すると発表した。

その後、7月29日報道によると、カザフスタンの食品衛生当局も、ラトビア産及びエストニア産魚製品のカザフスタンへの輸入を一時的に禁止すると発表した。

ロシアの食品衛生当局は、今年6月4日よりラトビア産及びエストニア産の全ての魚製品輸入を一時的に差し止めることを決定し、ラトビア食品獣疫局は7月20日にロシア側に対して報告書を提出するとともに禁輸解除を求めていた。本件につき、ロシアとラトビアの当局は8月3日に協議を行うことになっている。

◆67.5%の住民が税制に不満—世論調査

7月6日報道によると、調査会社SKDSが行った世論調査で、67.5%の住民がラトビアの税制度は住民に対して不公平であると感じていることが明らかになった。同様の調査は毎年行われており、税制度への不満が最も高かったのは2010年(77.2%)で、それ以降は税制が「不公平」だと回答する住民は減少傾向にある。

◆経済省はインフレ予測値を上方修正

7月7日、経済省は2015年の経済見通しを発表し、GDP成長率は2.0%、インフレ率は0.9%前後になると予測した(今年2月に発表したインフレ予測値0.5%から上方修正)。同省は、年初の電力価格・公共交通機関利用料金の値上がりと、世界の原油価格や食料品価格がインフレに影響を与えるだろうとの見方を示している。

◆6月のインフレ率は0.6%

7月8日、中央統計局は、6月の消費者物価上昇率は対前年同期比0.6%であったと発表した(物品価格は0.4%下落、サービス価格は3.3%上昇)。過去12か月の平均物価上昇率(対前年同期比)は0.5%。

物価上昇が特に著しかったのは住宅関連価格(4.8%増、電気代や上下水道代等の上昇が原因とみられる)やホテル・レストラン(3.2%増)など。一方、輸送燃料価格の下落(10.2%)を受けた運輸部門などでは物価の下落が見られた。

◆チーズの生産・輸出が好調

7月14日報道によると、ラトビアではチーズの生産が好調であり、今年1~5月の生産量は17,400トンで、対前年同期比で34%増加した。また、同時期のチーズの輸出量は6,131トン(対前年同期比1%増)で、特にドイツ(34%増)、オランダ(19%増)などへの輸出が著しく増加した。

2014年8月、ロシア側の措置によりラトビア産乳製品のロシアへの輸入が禁止されたが、他のヨーロッパ諸国への輸出拡大により減少分を補う結果となっている。なお、ロシアによる禁輸措置導入前の2014年1月~7月の対ロシア・チーズ輸出量は2,707トンであった。

◆30歳未満の労働者は平均14か月で離職

7月22日に報道によると、求人情報サイト「CV Market」が行った調査で、18~29歳の労働者による1か所の勤務地での平均勤続期間は14.2か月であることが明らかになった。同調査によると、30~45歳の平均勤続期間は30か月、46歳以上の平均勤続期間は74か月であった。バルト三国の若年労働者の中で比較した場合、ラトビア人の離職率が最も高く、エストニアの30歳未満の労働者の平均勤続期間は19.4か月、リトアニアの場合は17.1か月であった。

◆リガの家計1人あたり消費支出は月額377ユーロ

7月27日に中央統計局が発表したデータによると、2014年にラトビアの家計1人あたりが毎月消費した平均支出額は299ユーロで、前年から0.4%減少した。内訳は、食費(82ユーロ)が全体の28%を占め最も多く、次に住宅関連費(16%)、交通費(13%)が続いた。これらの支出と衣類・医療関連の支出とを合わせると、生

活必需品・サービスへの支出が全体の69%を占めている。農村部の平均支出額は前年の255ユーロから250ユーロに減少したが、これは農産品価格の低下とロシアによる禁輸措置が一因とみられている。

一方で、リガ在住の家計1人あたり支出額は月額377ユーロで、前年から12ユーロ(3.3%)増加した。

◆第2四半期のGDP成長率は2.6%

7月30日、中央統計局は、2015年第2四半期のGDP成長率(対前年同期比)は2.6%であったとの速報値を発表した。生産部門(成長率2%)と貿易を除くサービス部門(同3%)が成長を牽引したとされている。

◆カルヴィーティス元首相がラトビア・ガス社新CEOの候補に

7月30日報道によると、ラトビア国内のガスの調達、販売等を独占的に行っているラトビア・ガス社は、現在CEOの選出を行っており、カルヴィーティス元首相が候補者の一人に挙がっている。新たなCEOは8月14日までに決定する見込み。同社の現CEOを務めるダービス氏は今年5月末に辞意を表明していた。

◆1～7月の税収目標達成ならず

7月31日、財務省は、2015年上半期の歳入は45億8600万ユーロで、対前年同期比で2.2億ユーロ(5.1%)増加したと発表した。歳出は43億6800万ユーロで、対前年同期比で2.8億ユーロ(6.9%)増加した。

一方、国家歳入庁は、8月5日、今年1～7月の税収は40億5000万ユーロであり、前年から5.1%増加したものの、目標値にあと3000万ユーロ届かなかったと発表した。これは主に、付加価値税と社会保険関連費の徴収が目標値を下回ったことが原因とみられている。

— 外交 —

【今月の注目記事】

◆ベーヨニス大統領のエストニア訪問(7月10日)

7月10日、ベーヨニス大統領は、大統領就任後初の外遊先としてエストニアを訪問し、イルヴェス大統領、ネストル国会議長とそれぞれ会談した。イルヴェス大統領との会談でベーヨニス大統領は、両国は常に良好な二国間関係を維持してきたと述べた上で、軍事面、特に軍事品の協同調達やEU加盟国とEU域外国との境界線の強化といった面での二国間協力の重要性を訴えた。

◆ベーヨニス大統領のリトアニア訪問（7月13日）

7月13日、ベーヨニス大統領は大統領就任後2か国目の外遊先としてリトアニアを訪問し、グリボウスカイテ大統領、グロウジニエネ国会議長とそれぞれ会談した。ベーヨニス大統領は地域の安全保障面での協力強化の必要性に触れ、「軍事品の協同調達プロジェクトは二国間協力の好例である。軍事品価格は大量購入により安くなるため、バルト諸国及びポーランドによる軍事品の共同購入の提案を呼びかけたい。」と述べた。

◆ラトビアは2年間で250人の移民を受入れ可能

7月6日、政府は臨時閣議において、2年間で250人の移民を受け入れることに合意した（ただし、連立与党を構成する右派政党「ナショナル・アライアンス」は移民の受入れに反対している）。移民問題については6月25日から26日にかけて開催された欧州理事会において協議され、EUが2年間で受け入れる予定の約6万人の移民をEU各国に分散させることで合意していた。

◆リンケービッチ外相のエストニア訪問（7月3日）

7月3日、リンケービッチ外相はエストニアを訪問し、ペントウス＝ロシマヌス外相と会談した。両者は二国間関係、安全保障政策、ラトビアのEU議長国時の成果等に関して協議した。

◆ストラウユマ首相のストラスブール訪問（7月7日）

7月7日、ストラウユマ首相はフランス・ストラスブールを訪問し、欧州議会の本会議においてラトビアのEU議長国としての成果につき説明した。本会議後の記者会見において、ストラウユマ首相は「ラトビアはEU議長国時に全ての意見に耳を傾け、合意し、目的を持って前進した。私はラトビアのプロ意識を誇りに思う。」と述べた。また、議長国時の成果として、欧州戦略投資基金に関する合意、携帯電話国際ローミング料金の無料化に関する合意、18億ユーロのウクライナへの融資決定などを挙げた。

◆ストラウユマ首相の臨時ユーロ圏首脳会合出席（7月12日）

7月12日、ストラウユマ首相はブリュッセルを訪問し、ギリシャに対する金融支援を協議する臨時のユーロ圏首脳会合に出席した。EU各国はギリシャ側に対し、新たな融資計画に関する協議開始に向けて厳しい条件を提示し、7月15日までにその一部を実行するよう要求した。ストラウユマ首相は、「ギリシャ政府は改革実行のために具体的な行動をすべきである。我々はギリシャの提案を尊重するが、約束だけでは不十分である。」と述べた。

◆ロシアの反政権団体がラトビアの総領事館に抗議

7月13日夜、ロシアの反政権団体「もう一つのロシア」の活動家3名は、在サンクトペテルブルク・ラトビア総領事館に卵と発煙筒を投げ込むなどの抗議活動を行い、このうち1名が警察官により拘束・拘禁される事件があった。「もう一つのロシア」によると、今年6月に同組織のメンバーのロシア国籍者数名がリガ近郊にあるアーダジ・ラトビア国軍基地の敷地内に不法侵入しようとし、このうち2名がラトビア当局により拘束されたため、今回の総領事館への抗議活動に至ったとしている。

◆ジョージア及びモルドバへの渡航が簡素化

(1) 7月13日、ラトビア外務省は、ラトビアのパスポート保持者はジョージアに査証なしで1年間滞在できるようになったと発表した。ラトビア国籍保持者はIDカードのみでの渡航も可能（パスポートは不要）。

(2) 7月14日、ラトビア外務省は、モルドバ政府が全EU加盟国及びシェンゲン条約締結国で発効されたIDカード保持者（ラトビアの場合は国籍保持も要件）に対し、IDカードのみでのモルドバへの入国を承認した（パスポートは不要）ことを発表した。

◆レイズニエツェ＝オゾラ経済相の訪米（7月13日～17日）

7月13日～17日の間、レイズニエツェ＝オゾラ経済相は米国を訪問し、モニツ米国エネルギー省長官をはじめとする米国政府関係者及びエネルギー部門の関係者と会談した。会談では、欧州エネルギー連合設立、2017年に予定されているラトビアの天然ガス市場の自由化、天然ガスの供給源多様化、ラトビアのエネルギー部門への投資誘致等に関して協議した。

ラトビアではエネルギー供給源の多様化のため、米国からのLNGの輸入も視野に入れており、レイズニエツェ＝オゾラ経済相は今回の訪米中にルイジアナ州にあるLNGターミナルも視察した。

◆ベルグマニス国防相のリトアニア訪問（7月22日）

7月22日、ベルグマニス国防相は、同職就任後初の外遊先としてリトアニアを公式訪問し、オレカス国防相と会談した。両者は国防分野における二国間関係に関して協議し、両国の国防予算増額及びウクライナへの支援が必要であるとの見解で一致した。また、両者は専門家による防空システム設備の共同購入に関する協議が開始されたことに満足の意を表明した。

◆ウェルズ宣言の75周年記念式典開催

7月23日、ラトビア外務省において、1940年7月23日に当時のウェルズ米国外務長官代理が発表した同年6月のソ連によるバルト三国併合を非難した声明「ウェルズ宣言」の75周年記念式典が開催された。本件につき、ベーヨニス大統領はオバマ米

大統領に対し、米国がソ連によるバルト三国併合を認めなかったことに対し謝意を表明する書簡を送付した。

—日本との関係—

【今月の注目記事】

◆リンケービッチ外相のクロアチア訪問及び藺浦外務大臣政務官との会談

7月9日～11日の間、リンケービッチ外相はクロアチアを訪問し、10日、開発協力に関する外相級会合「クロアチア・フォーラム」に出席した。リンケービッチ外相はこの会合の機会に藺浦外務大臣政務官と会談し、主に経済分野における二国間関係について協議した。藺浦政務官は2015年末までにラトビアがOECD加盟手続を完了させることにつき支持を表明した。リンケービッチ外相は、今秋、ラトビアのビジネス代表团とともに訪日する予定であると述べた。

◆歌手・加藤登紀子氏がリエパーヤでのコンサート「桜の枝」に出演

7月30日、歌手・加藤登紀子氏は、ラトビア西部の港湾都市リエパーヤで行われた音楽フェスティバル「リエパーヤの夏」のオープニングコンサート「桜の枝」に参加し、ラトビアを代表するオーケストラであるリエパーヤ交響楽団と共演した。

このコンサートは、加藤氏のヒット曲「百万本のバラ」の原曲「マーラは与えた」が誕生したラトビアにおける、同氏の歌手活動50周年企画の一環として行われたもの。この原曲は、ライモンツ・パウルス元ラトビア文化大臣が作曲し、詩人のレオンス・プリアディス氏が作詞した。なお、加藤氏はこれに先立ち、本年6月に日本の7都市でリエパーヤ交響楽団と「百万本のバラ・コンサート」を実施している。

当日のコンサート会場は、ビトコブスキス・リエパーヤ市副市長をはじめとする多くの来場者で満席となった。コンサートの冒頭に、多賀大使より、加藤登紀子氏とリエパーヤ交響楽団の交流を通じて、日・ラトビア間の友情が益々深まっていることは大変喜ばしいとの挨拶を行った。公演は大変盛り上がり、会場の観客は総立ちとなった。



加藤登紀子氏に花束を渡す観客



総立ちで拍手をする会場

◆ラトビア政府観光局が日本のジャーナリストをラトビアに招待

7月7日から12日にかけて、ラトビア観光開発局は日本人ジャーナリスト7名をラトビアに招待し、国内の様々な地域の観光施設を紹介した。7名はいずれも日本の雑誌「MOE」、「リンネル (Linier)」、「Plus 1 Living」の取材担当で、同局は2012年以降、日本のジャーナリスト及び旅行会社の代表をラトビアへ招待している。

ラトビアを訪れる日本人の数は年々増加しており、2015年第1四半期の日本人旅行者数（ホテル等の宿泊統計）は対前年同期比で58%増加し、約1,600人を記録した。

◆盆栽展の開催

7月9日から12日の間、ラトビア大学附属植物園においてフラワーショーが開催され、日本大使館は、ラトビア大学附属植物園及びバルティック盆栽パークと共催で、盆栽の展示・デモンストレーションを行った。

盆栽の展示・デモンストレーションは、2012年よりリガ・フラワーショーの一環として毎年開催されている。盆栽展では、ポーランド及びラトビアからの盆栽師が参加し、多くの来場者が見守る中、デモンストレーションが実施された。イベント中は約30点を超える盆栽が展示された。



展示及びデモンストレーションの様子

◆ラトビア民話の絵本「鹿姫ものがたり」挿絵コンテスト表彰式の開催

姉妹都市関係にある北海道東川町とラトビア北部ルーイエナ町の交流事業の一環として、今般、かまくら春秋社の編集によりラトビア民話の絵本「鹿姫ものがたり」（日本語、ラトビア語、英語併記）が出版された。同絵本については昨年12月に挿絵コンテストが開催されており、約200名の応募者の中からアグネセ・マティソーネさんの作品が同絵本の挿絵に採用されていた。

7月13日、日本大使公邸にて同コンテスト入賞者の表彰式が行われた。同表彰式に

は、メルバルデ文化大臣、グラドキンス・ルーイエナ町長、かまくら春秋社代表取締役伊藤玄二郎氏らが出席した。

かまくら春秋社の編集によるラトビア民話の絵本は、昨年出版された「森はいいところ」に続き2作目。



コンテスト入賞者との記念写真

(中央：文化大臣，中央右：伊藤氏，右から4番目：マティソーネさん)

◆バルト三国の政府観光局が日本で観光セミナーを実施

バルト三国の政府観光局は、7月21～23日にかけて、日本の旅行会社及びメディアに対して同地域の観光の魅力を紹介するセミナーを東京、名古屋、大阪で実施した。ラトビア観光開発局の担当者は、日本でマーケティングを行う際は日本語でセミナーを実施することが大変効果的だとしている。

—その他—

◆リガで「第11回青少年の歌と踊りの祭典」を開催

7月6日から12日にかけて、5年に1度リガで行われる「青少年の歌と踊りの祭典」が開催され、約3万8千人の歌い手及び踊り手が参加した。同祭典の全ての関連イベントを合わせると、約20万人の観客が集まったとみられている。

以上

2015年7月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日		
2日		
3日		リンケービッチ外相エストニア訪問
4日		
5日		
6日	政府は250人の移民受入れについて合意 第11回青少年の歌と踊りの祭典(～12日)	
7日		ストラウユマ首相ストラスブール訪問, 欧州議会本会議出席
8日	ベーヨニス新大統領が就任 ベルグマニス新国防相が就任	
9日		ベーヨニス大統領エストニア訪問 リンケービッチ外相クロアチア訪問(～11日), 外相級会合 「クロアチア・フォーラム」出席, 藪浦外務大臣政務官と会談
10日		
11日		
12日		ストラウユマ首相ブリュッセル訪問, 臨時ユーロ圏首脳会合出席
13日		ベーヨニス大統領リトアニア訪問 レイズニエツェ=オゾラ経済相訪米(～17日)
14日	ラトビア首相府ウェブサイトに対しロシア領内からとみられる サイバー攻撃が発生	
15日		
16日		
17日		
18日		
19日		
20日		リンケービッチ外相ブリュッセル訪問, EU外務理事会出席
21日		
22日		
23日		リンケービッチ外相ルクセンブルク訪問(～24日), 非公式 EU総務理事会出席
24日		
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		
30日		
31日		

ラトビア主要経済指標

ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した(1ユーロ≒136円)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
名目GDP	百万ユーロ	22,886	18,598	18,190	20,312	22,083	23,315	24,060	6,093	-	中央統計局
国民一人当たりGDP	ユーロ	10,509	8,682	8,673	9,866	10,859	11,575	12,052	-	-	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 2.8	▲ 17.7	▲ 1.3	5.3	5.2	4.1	2.4	-	-	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
財政収支	百万ユーロ	▲ 1,001	▲ 1,693	▲ 1,479	▲ 718	▲ 303	▲ 212	▲ 347	77	-	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.4	▲ 9.1	▲ 8.1	▲ 3.5	▲ 1.4	▲ 0.9	▲ 1.4	-	-	中央統計局
政府債務残高	百万ユーロ	4,534	6,870	8,096	8,527	9,013	8,873	9,633	8,459	-	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.9	44.5	42.0	40.8	38.1	40.0	-	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
失業率	%	6.0	13.2	14.5	12.0	11.4	9.0	8.3	7.8	-	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	0.0	0.6	0.4	0.6	中央統計局
平均賃金(グロス)	ユーロ	682	655	633	660	685	716	765	785	-	中央統計局
平均賃金(ネット)	ユーロ	498	486	450	470	488	516	560	580	-	中央統計局
家計一人あたり可処分所得	ユーロ	355	303	286	305	320	354	-	-	-	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
海外直接投資残高	百万ユーロ	8,126	8,072	8,184	9,360	10,258	11,472	11,998	12,448	-	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
輸出(FOB)	百万ユーロ	6,302	5,126	6,680	8,535	9,871	10,021	10,229	2,452	-	中央統計局
輸入(CIF)	百万ユーロ	10,711	6,701	8,412	10,983	12,512	12,635	12,593	2,958	-	中央統計局
貿易収支	百万ユーロ	▲ 4,409	▲ 1,575	▲ 1,732	▲ 2,448	▲ 2,641	▲ 2,614	▲ 2,364	▲ 506	-	中央統計局

日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
日本への輸出	千ユーロ	21,870	25,035	33,634	34,792	34,615	44,091	33,014	10,546	-	中央統計局
日本からの輸入	千ユーロ	27,369	8,667	7,463	16,975	14,050	12,044	13,473	3,513	-	中央統計局
対日貿易収支	千ユーロ	▲ 5,499	16,368	26,171	17,817	20,565	32,047	19,541	7,033	-	中央統計局

日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
ラトビアへの輸出	百万円	6,693	2,043	3,458	4,050	4,908	5,054	5,240	1,267	1,309	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	3,599	3,696	4,609	4,587	8,761	6,658	6,235	1,328	1,897	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	3,094	▲ 1,653	▲ 1,151	▲ 537	▲ 3,853	▲ 1,604	▲ 995	▲ 61	▲ 588	財務省統計

両国間の訪問者数

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	2015 Q2	出典
ラトビア→日本	人	1,296	865	875	495	807	996	1,365	379	454	日本入管統計
日本→ラトビア(宿泊統計)	人	6,043	6,690	5,428	5,843	7,322	8,988	15,606	-	-	中央統計局